



2025宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業

第9回プログラム実施レポート



リ・トライ!
2025年度宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業

**Switch
認定NPO法人**

参加無料 装置自由 食べ物提供 受講奨励金支給

**リ・トライ！
居場所 & プログラム
開講のお知らせ**

第9回 1月12日(月) 14:00～16:00
(会場詳細は、別途参加者へお知らせします)

ワークショップ **SOLUTION** **プログラミングを使って、身の周りの課題解決に挑戦**

日常生活の中で、ふと「どうやって解決すればいいんだろう?」、「もっと便利にならいいのに」と思うことはありませんか?そんな“困りごと”や“問題”に、プログラミングを使って挑戦してみましょう。

今回のワークショップでは、誰でも簡単に扱えるソニーの MESH™ を活用します。身近な課題をテーマに、実際に手を動かしながら「問題解決の考え方」や「取り組み方」を学べる授業です。プログラミング初心者でも安心して参加できます!

刑務所や少年院を出た後に、生活の場面や就職、アルバイトのなかで、悩みをかかえることはありませんか?
「職場の人たちはどううまく会話をできない」
「2~3年後のキャリアがイメージできない」
「普段の仲間に説かれて今の仕事をやめようと考えている」
「給料をもううとうぐに使ってしまい生活が苦しい」
「また同じことをしてしまいそうで誰かに相談したい」、など
そのような悩みをかかえる方のために、全12回のプログラムをご用意しました。
生活の場面での困りごとへの具体的な対処法や、先輩たちとの対話、そして個別相談もできる場となっています。
働き続けることで悩む皆様を、相談やプログラムでサポートします。

講師: 原 捩又(ひさや)様

一般社団法人 Arc & Beyond
インバウトクリエイション部 プロデューサー
エンジニアとしての経験を基に、テクノロジーを活用した教育事業等に取り組む。
主な活動として、プログラミングを活用した課題解決型ワークショップを企画・運営し、少年院をはじめさまざまな場で活動しています。

参加申込書 (FAX:022-762-5853)
次の通り参加したいので、申し込みます。 年 月 日

氏名	(フリガナ)
生年月日	西暦 年 月 日
現住所	〒 一 宮城県
電話番号	電話番号: - -
メール	メールアドレス: @

QRコード: <https://www.retry-miyagi.org/outline.html>
アクセスできない場合は、メールか電話でお問い合わせください

実施日: 26年1月12日(月) 14:00～16:00

ワークショップ: プログラミングを使って、身の周りの課題解決に挑戦

日常生活の中で、ふと「どうやって解決すればいいんだろう?」、「もっと便利にならいいのに」と思うことはありませんか?そんな“困りごと”や“問題”に、プログラミングを使って挑戦してみましょう。

今回のワークショップでは、誰でも簡単に扱えるソニーの MESH™ を活用します。身近な課題をテーマに、実際に手を動かしながら「問題解決の考え方」や「取り組み方」を学べる授業です。プログラミング初心者でも安心して参加できます!

参加者:

受講者10名、講師1名、オブザーバー2名、スタッフ4名(内ボランティア1名)

会場: トークネットホール仙台(仙台市民会館) 第1会議室

運営団体

Switch
認定NPO法人



〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡1-6-3 東口鳳月ビル602

☎: 022-762-5851 FAX: 022-762-5853

メールアドレス: info@retry-miyagi.org 担当: 今野、本間

プログラム構成

- 14:00~14:05 プログラムの説明、講師紹介
- 14:05~16:00 ワークショップ：
「プログラミングを使って、身の周りの課題解決に挑戦」
 - 14:05~14:10 ウォーミングアップ(自己紹介)
 - 14:10~14:45 プログラミングに挑戦
 - 14:45~14:55 休憩＆雑談タイム
 - 14:55~15:30 プログラミングを使って課題解決に挑戦
 - 15:30~15:45 制作発表
 - 15:45~16:00 アンケート記入と感想全体共有
- 16:00~16:10 次回以降のご案内、他

プログラミングを使って
身の周りの課題解決に挑戦！

Arc & Beyond

今日の流れ

- 1 : プログラミングに挑戦
- 2 : プログラミングを使って課題解決に挑戦
- 3 : 制作発表
- 4 : 振り返り

Arc & Beyond

ウォーミングアップ(+自己紹介)

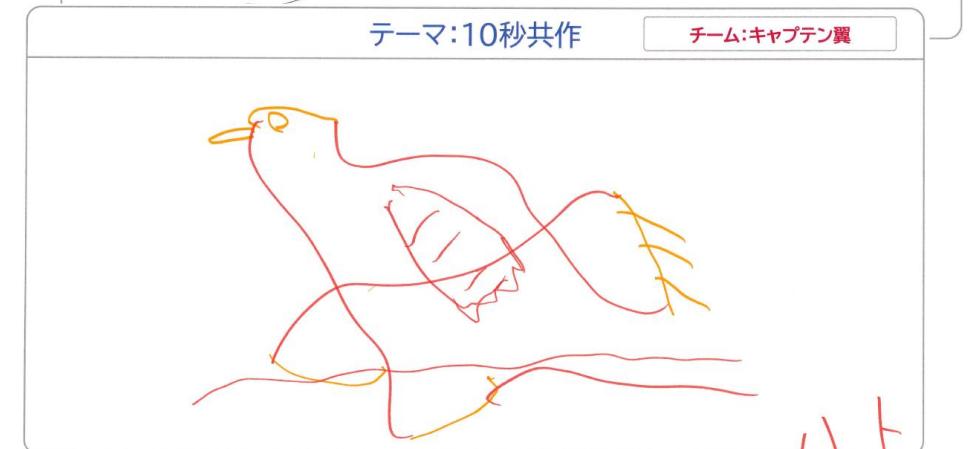
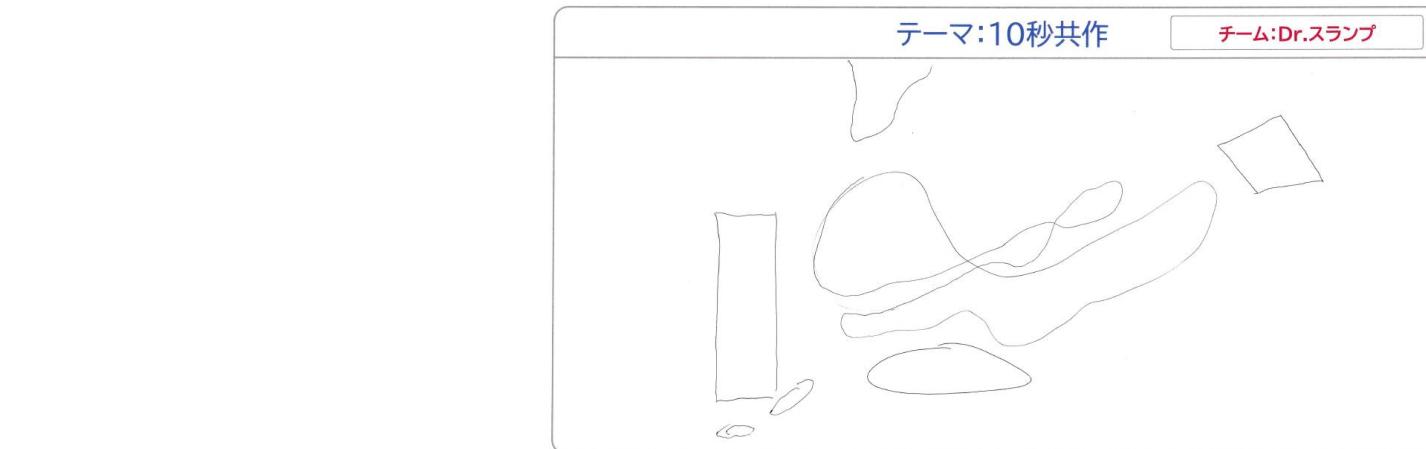
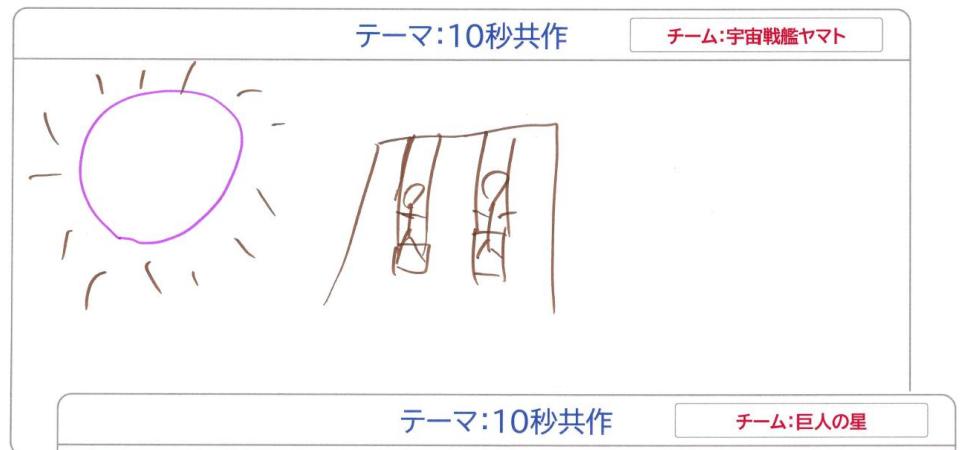
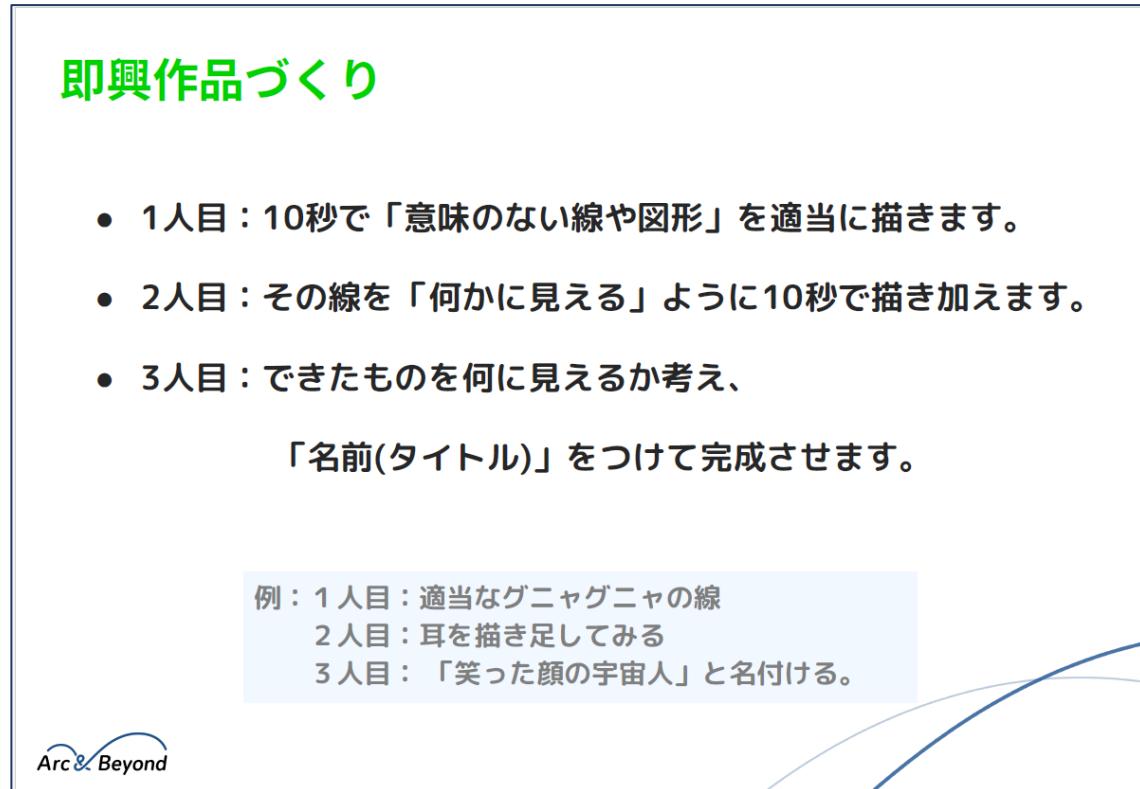
即興作品づくり

- 1人目：10秒で「意味のない線や図形」を適当に描きます。
- 2人目：その線を「何かに見える」ように10秒で描き加えます。
- 3人目：できたものを何に見えるか考え、「名前(タイトル)」をつけて完成させます。

例：1人目：適当なグニャグニヤの線
2人目：耳を描き足してみる
3人目：「笑った顔の宇宙人」と名付ける。

Arc & Beyond

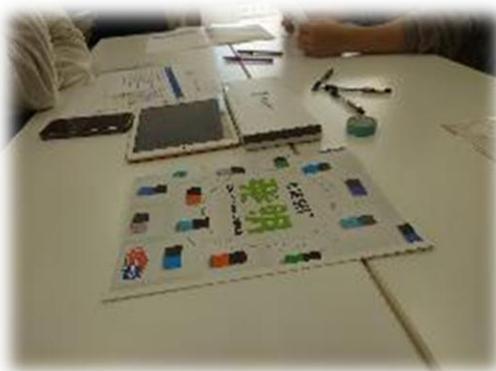
力作たち



プログラミングに挑戦

今日大事にして欲しいこと

- ✓ 正解／不正解はない
- ✓ みんなで試すと新たに見えるものもある
- ✓ モヤモヤも楽しむ



お題

MESHを使って、
日用品を便利なものに変える仕組みづくりに挑戦！

もの こと

紙コップ
ごみ箱
机
いす
箱
メガホン
：



しゃべる
うごく
ひかる
たたく
あける
ふる
：

これからやること

グループごとに
日用品を便利なものに変える
仕組みをつくってみてください。

発表は実演形式で！



プログラミングを使って課題解決に挑戦



作品タイトル	
便利になるのは誰か?	どのように便利か?
小さい子供	手洗い場所で「手洗いの悪いお子様」も簡単にできます。 ・手洗いの手順をよりよくわかりやすくできます。 ・手洗いでもう少し楽になります。 「手洗い手帳」もつけてお出でです。
作った仕組みの説明	
① 洗は[M] + LED [点灯] 水浴 洗濯用 + 水引 - [消灯]	
作品タイトル	
便利になるのは誰か?	どのように便利か?
家庭 (奥山)	手洗いが楽しくなった 手洗いが楽になった
作った仕組みの説明	
ピッキン前は水流を扇形で扇動。 アーチ前は水流をまろやかに導く。 両方とも便利だと喜んでました。	

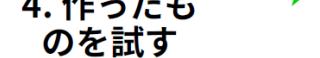
制作中



まとめ

今日やったこと

1. 問題を見つける



2. 解決策を考える



3. アイデアを形にする



4. 作ったものを試す



受講者コメント

リ・トライ！プログラム受講後アンケートより

【質問】自身が成長したと感じられる点や、今後の仕事や生活に役立つと思うことを教えてください。

- 今回も色々な普段から学べない事を学べて良かったです。
- 将来プログラミングの仕事に就きたいという夢があったので、プログラミングが役に立った。
- 自分がものまねのサンシャイン〇〇で、“くうぜんぜつごのお～、くどい掃除の…”とうけていました。
- 人と話をするのが苦手な自分がプログラミングを通して他の人とコミュニケーションを取り合い一つの物を完成させるのはとても楽しかったです。
- プログラミングは初めてでしたが、思っていたより楽しく出来て大変うれしかったです。
- 家から出れた事。
- 触れてこなかったものを学べるという貴重な経験でした。元々興味はあったものの機会がなかったのでとてもありがとうございました。
- 課題が少しでも解決できるように、同席の仲間と相談して事を進められた。
- 思いつきを点のままにしておくことが多いので、線で結ぶと良いものがちゃんと出来ると思いました。
- プログラミングやタブレット等を使えるようになれば、より生活に役に立つと思えた。

【質問】プログラムの改善点や、その他感じたことを自由にお書きください。

- また参加したいと思います。ありがとうございました。
- モーターができればいいなと思った。
- サンシャイン〇〇をしながら、路上バスケットをしています。
- 特にありません。
- 別にありません。
- 人が多いと疲れます。
- 毎回色々なテーマで自分にはとても新鮮で良い経験となってます。
- 仲間との一体感を感じれた。大変良かった。
- 2時間の使い方、2時間という時間そのもの、とても良いと感じました。
- 内容は最初難しいかなと思っていたが、すぐに慣れたことに驚いた。



総括コメント

「人と話すのが苦手だった自分が、プログラミングを通して仲間とコミュニケーションを取り合い、一つのものを完成させるのが本当に楽しかった。」

「課題を少しでも解決できるように、同席した仲間と相談しながら進められた。」

こんな言葉が、自然に参加者の口からこぼれました。

週末、一般社団法人Arc & Beyondのご協力のもと、少年院や刑務所を経験した方を対象に、ソニーが開発したブロック型IoTツールを活用したプログラミング講座を開催しました。

チームで協力し、自分たちのプログラムで身の回りのものを便利にする——その過程で、たくさんの対話と笑顔が生まれました。

子どもの頃の習い事や、その後の進学やキャリアアップといった「学び」の機会から、長いあいだ遠ざからざるを得なかつた方たち。そんな皆さん、目を輝かせながら夢中で取り組み、冗談を言い合い、笑い合う姿は、本当に胸を打つものでした。

人は何歳からでも、どんな過去があっても、学び直し、つながり直し、もう一度社会と出会い直すことができる。そんなことを考えながら、この素敵な景色を見させていただきました。

こんな場所があることが、地域で孤立するもっともっと多くの方に伝わりますように。

次回は1月31日(土)。

テーマは「社会を生き抜くチカラを磨くソーシャルスキルズトレーニング」です。



(代表理事 FBより一部編集し引用)